



ルー  
テル

# 藤が丘だより

発行 月報委員会 発行日 2021年5月2日

№. 84

わたしは良い羊飼いである。  
良い羊飼いは羊のために命を捨てる。  
ヨハネによる福音書 10章11節



礼拝献花より

## 御言葉に生きる

あなたの御言葉は、わたしのものとなり わたしの心は喜び躍りました。  
エレミヤ書 15章16節b

ルーター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏  
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009  
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: [fujigaoka@jelc.or.jp](mailto:fujigaoka@jelc.or.jp)



## シリーズ説教

### 『神の美しさ』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ10章11節〜18節

福音の日課に目を向けますと、主イエスが「わたしは良い羊飼いである」と言われているのですが、実は、ここで使われている「良い」と訳されている言葉には、「美しい」という意味も持っているのです。「良い羊飼いである」という「良い」が「美しい」という意味もあると知って、私が先の話と共に思い起こしたのは、イザヤ書52章の言葉になります。「いかに美しいことか／山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は」。

その足は良い知らせを伝えるために、山々を行き巡るのですから、埃にまみれていることでしょう。傷ついてもいるでしょう。決して外面的には美しいとは言えないと、私たちには思われます。しかし聖書が告げていることは、見栄えが美しいというのではなく、良い知らせを届けずにはいられないと山々を走り回って告げて回ることを、その告げる良

い知らせのゆえに、美しいということなのです。

このように考えますと、「わたしは良い羊飼いである」と、主イエスが言われる場合、その良さは正しさというよりも、良い知らせを告げるために走り回る者の足が美しいと言われているように、良い知らせのため目に見えない「良さ」「美しさ」を言い表しているのではないのでしょうか。その「良い知らせ」とは、福音にほかならないのですが、それは神の子イエス・キリストが、私たちの罪の赦しのために十字架の死を遂げられたこと、そして復活されたということになります。「わたしは良い羊飼いである」と言われる主は、その良い知らせ、福音を知らせるだけでなく、自ら辱められ、嘲られ、罵られ、傷つき、人々に誤解されたまま、その身に痛みを受けられ、十字架の死を遂げられました。このような驚くべき方法を通して、福音そのものとなった「美しい」と言われていることなのです。

さて、私たちの良い羊飼いであるイ

エスは言われています。「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かねばならない。」「こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」教会の宣教について考えさせられます。「この囲いに入っていない羊をも導かねばならない」と言われる良い羊飼いいエスの思いを実現し、「一人の羊飼いに導かれ、一つの群れとなる」ために、私たち教会は宣教するのです。

私たち教会の宣教とは、神に派遣されることよって起こされ、その派遣された使命、目的を果たすことにあります。つまり、神ご自身が私たち教会を通して働かれるということになります。私ども教会の規則に明記されていることは、「キリストの命に従って、信仰の交わりをし、福音を宣べ伝え、御言葉を教え、奉仕をし、これらによって神に仕える」ということです。そしてこれらをぎゅっと凝縮して言うならば、私たち教会がなすことは、神に仕えるということになるのです。神に仕えるために、私たちはこの世に派遣されているということなのです。神に派遣された群れとして、福音を伝えること、

御言葉を教え、聞くことに熱心であり、人々に愛の奉仕をなす。これらが教会が「教会」である理由なのです。私たち教会の宣教はこの世的にみるならば、決して効率的でも、目に見える結果が与えられることも多くはありません。しかし、イザヤ書にみえた「良い知らせを伝える者の足が美しい」とありましたように、その伝える福音のゆえに、その足は美しいのです。私たちが伝えるようにと託されている福音が、良く、また美しいゆえに、私たちの宣教が良い、美しいとされているのです。私たちの宣教とは、私たちが神に派遣された使命を言うのですが、キリストが「辱められ、嘲られ、罵られ、傷つき、人々に誤解されたまま、その身に痛みを受けられ、十字架の死を遂げられた」、この人の目には美しいとは映らない神の美しさによって、福音そのものとなってくださった。この良い一人の羊飼いに導かれ、私たちはすべての人々と共に、一つの群れとされていくのです。ここに教会の宣教の目的があり、神の美しさは私たち教会をこの世に派遣する力となって、今日も働かれます。(復活節第4)

# 御言葉に生きる 8

## 私の愛唱聖句

清〇〇子

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙一

5章16節〜18節

20才前半で受洗した私にとって、この3節の御言葉が常に私の傍らにあったと思います。求道中の勉強の際に、この箇所を読んだ時には、「あら、簡単じゃない」と思いました。ところが、いざキリスト者となって、日々の生活を送っていると、この3つの事がなかなかできないのです。仕事、家庭、自分の身体に問題があると、暗い方暗い方に落ち込み、とても喜んでいられず、お祈りもせず、感謝なんてとんでもないと送った日々も多々ありました。でも、辛くなればなるほど「ふっ」とこの3節が浮かんできたのです。喜び、祈り、感謝、私にできる御言葉を神は私に与えて下さっているのだからと。そ

んな時には、いつも肩から力が抜け、何か温かいものに優しくくるまれていた。きつとこれからも、この3節が私を柔らかく包んでくれることと思っています。



## 私の愛唱聖句

〇本〇宣

「若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、驚のように翼を駆って上ることができ。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。」

イザヤ書40章30〜31節・新改訳

「主は永遠の神、地の果てまで創造された方。疲れるとなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。」

イザヤ書40章28節・新改訳

ヒュー・ハドソン監督の「炎のランナー」は、パリオリンピックの百メートル金メダリスト、ハロルド・M・エイブラハム氏の葬儀から始まり、ヴァンゲリス氏の音楽をバックに浜辺を走るランナー達、犬を散歩

させる父子の映像から始まり、オリンピックのレースを映し、中国へ宣教に赴いたエリック・リデル氏（同オリンピックの四百メートル金メダリスト）が亡くなった話で終わる。人生で最初の大きな挫折や不幸・不運で落ち込んでいた私は、この映画を夕方ふらつと一人で入った映画館で見た。陸上競技をやっていた私には、かつての異国の若人の話のすべてがまぶしく、あこがれを感じた。その後、仙台で出会ったアメリカ人宣教師の生き方にあこがれたのがキリスト教へ入信するきっかけとなった。この映画の中でリデル氏が教会で語るのが、「若者も疲れ、たゆみ、若い男もつまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、驚のように翼を駆って上ることができ。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。」（イザヤ書40:30〜31）である。それまで全くキリスト教に触れたことのない私には意味がよく理解ができなかったが、言葉の力に感動したことを今でも思い返す。

若い時期には向こう見ずな情熱がある。壮年期には経験と円熟がある。ただ、それらの時期にも必ず、

嵐や雷雨がやってくる。人間は、外来の困難と闘いつつ内面の煩惱にも悩む。人間は、知的すぎるがゆえに悩みと苦しみが大きくなり、それが信仰心や忠誠心を育んだり、または真逆の快樂・酒・暴力などに溺れる原因となるのかもしれない。そのような生物が共生によって共同体の中で生きるのには、なかなか大変なことだと思う。弱肉強食は人類史の一つの原則であるが、そのような社会の中で、神を愛として隣人愛を広げたイエスキリストや、古代インドで欲を捨て生物全般に憐れみの概念を見いだした仏陀の思想は、社会のバランスを保つために必然的に誕生したのかもしれない。科学がいかに進もうとも年を重ねようとも、人生に悩みや苦しみは消えることはない。そうであるからこそ、イザヤ書40章を思い返しつつささやかな歩みを進めようと考えている。いつか人生を終えるときには、「主は永遠の神、地の果てまで創造された方。疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。」（イザヤ書40:28）を胸に、安心して旅立ちたいと願っている。

## 学び「教会はキリストの体」始まる。

コロナ禍にあつて、まだまだグループに分かれての礼拝が続けられています。今年度の宣教計画に従い、学びの時間がグループごとに始まりました。使用するテキストは、「教会はキリストの体」エフエソ書に学ぶ」です。第1回は、江藤直純先生(写真)をそれぞれのグループの学びにお迎えしました。(それぞれリモートでの参加を含め、18日は28人、25日は31人でした。)

今後、「教会とは何か」「教会とは誰か」と問いつつ、役員の方のリードによって、月1回の予定で続けられます。お楽しみに。(佐藤)



## 今月の受洗記念日の皆さん

- 14日 ○田○兄 名○恵○子姉
- 15日 上○哉兄 17日 ○田○恵姉
- 21日 ○藤○子姉 25日 ○野○兄
- 26日 ○谷○か姉 27日 ○田○子姉
- 29日 ○田○子姉
- 31日 ○谷○葉姉

おめでとうございます。



「あなたの御言葉は、わたしのものとなり  
わたしの心は喜びました。」エレミヤの15章16節も  
福音が教会ウェブサイト <http://www.fujigaoka.org/>  
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日朝11時迄10時迄)

## 教会の動向



4月の教会は、2日の聖金曜日の礼拝収録から始まりました。4日は

イースターでしたが、2つのグループに分けているため、4日と11日の礼拝にて主の復活を覚え、聖餐式をいたしました。7日には聖研がありました。8日には、○田姉を訪問し、聖餐式をいたしました。10日は、宣教フォーラム準備委員会が

ありました。田○兄が委員長として○野姉が委員としてご奉仕くださっています。

13日には、よこはま藤が丘音楽祭準備委員会が開かれ、コロナ禍にあつて開催時期決定には至らず、秋に再度集まることになりました。16日には、教区常議員会がありました。18日、25日の礼拝後、それぞれ「教会はキリストの体」エフエソ書に学ぶ」による学びをいたしました。特別講師として江藤直純先生をお迎えしました。25日礼拝にて、名○恵○子さんの転入式がありました。

## 教会ツイートから

「上に誇るときには、地上のどんな種よりも小さいが、誇るとき、成長して・・・大きな枝を張る。」マルコによる福音書4章31、32節(部分)  
神の国はからし種のようなたとえられています。  
種は小さく、無力に見えますが、蒔くと驚くほどの成長をみるのです。まずは蒔いてみる。これが信仰です。

## 牧師室より

礼拝に集まることが難しい時期に置かれています。礼拝を休むことに、申し訳ないような思いをしてしまうこともあったでしょう。しかし、このような状況下にあつて、家庭で職場で御言葉に聞き、祈ることは、十分に礼拝と理解されるものと思いません。集まらない中にあつても、それぞれの場にあつて、礼拝のときを共にできればと願います。また、毎週の礼拝のために、祈りを合わせていただければと思います。(佐藤)